

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

- | | |
|--|---|
| <p>①大内伸哉著『君の働き方に未来はあるか?』光文社(241頁,新書判)
 本書は「正社員であれば安泰」という時代は過去のものになったと警告する。今後の社会で安泰なのは、ごく限られたエリート層だけであり、「真の意味での正社員」と呼べない人が増えていくという。その一方で、解雇や労働時間規制といった伝統的な労働法の保護が今後は減らされ、正社員としてのメリットはますます低下していくと指摘。労働者が生き延びていくためには、産業界が求める汎用的なスキルを身につけ、転職力をもつプロ的な正社員になる自覚が必要だと、これからの働き方に迷っている人たちに指針を提示。正社員になることに執着する社会的風潮に大きな危険性を感じ、労働法に頼りきらずに自立するとともに、多くのプロとの連帯も主張する。</p> | <p>③宮川真紀著『女と金』アストラ(262頁,四六判)
 働く女性の暮らし向きや人生観、経済状況などを女性誌30年分を基に分析。80年代初頭のOLにとってお金は「使うもの」。自己啓発につなげる使い方をする女性もいたが、均等法が施行され、建前上は男女同一賃金になったものの、男女格差の存在に不満の声が続出。その後のDCブランドブーム、90年代のバブル経済と崩壊を経て、自己防衛するOLと諦観する氷河期組が現れた。2000年代には派遣社員が台頭し、OLに取って代わり、「女子」が氾濫。著者は、平等でジェンダーフリー、性を意識させない言葉だという。そして、10年代は、女性誌が標榜するライフスタイルに収まらないほど働き方が多様化。女子の財布を見ていくことで、社会の中での立ち位置を検証する。</p> |
| <p>②松浦司編著『高齢社会の労働市場分析』中央大学出版部(xiv+266頁,A5判)
 高齢社会の“先進国”である日本。高齢化率は2050年には40%と予想され、主要国と比べてもその割合は高い。編者は、高齢化が経済成長を低下させ、経済成長率の低下は失業率の上昇をもたらし、出生率の低下は高齢化を加速させると指摘。本書は、経済学者と人口学者によって、高齢化が労働市場に与える影響を総合的に分析。マクロ経済分析、地域分析、国際化、雇用慣行・政策の未来の4つの視点からの論文で構成。第I部では、高齢化による就業減少、労働生産性、GDPへの影響をマクロ分析。所得・貧困等の地域間格差を分析した第II部に続き、第III部の国際化では、外国人労働者問題、企業の海外生産移転を追究、第IV部で人事制度・雇用政策の未来を展望する。</p> | <p>④池谷秀登編著『生活保護と就労支援』山吹書店(172頁,A5判)
 東京都練馬区や神戸市、新潟県見附市など7つの福祉事務所による生活保護受給者への就労支援の具体的な取り組みを紹介。背景や状況などは異なるものの、いずれも生活保護受給者とケースワーカーが課題について時間をかけて話し合い、その解決に向けて歩んでいる。その結果、生活保護廃止になる人がいる一方で、就労を始めたが収入額によっては保護が継続される人もいる。解決すべき課題も少なくないが、保護受給者が納得し、ケースワーカーもやりがいを感じるという達成感のある就労支援を築きあげる可能性があるという指摘。序章と終章では、福祉事務所における就労支援の問題点を検討、寄り添う支援、中間的就労、現在の雇用をめぐる状況との関係などの課題を提示。</p> |

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2014年2-3月労働図書館受け入れ)

- | | |
|---|---|
| ⑤森勇他編『ドイツ弁護士と労働法の現在』中央大学出版部(viii+256頁, A5判) | ⑩田沢由利著『在宅勤務(テレワーク)が会社を救う』東洋経済新報社(233頁, 四六判) |
| ⑥岸田真代編著『企業が伸びる地域が活きる』パートナーシップ・サポートセンター(141頁, A5判) | ⑪浅井隆他共著『リスクを回避する労働条件ごとの不利益変更の手法と実務』日本法令(207頁, A5判) |
| ⑦堀公俊著『ビジュアルビジネス・フレームワーク』日本経済新聞出版社(159頁, 新書判) | ⑫石田久仁子他編著『フランスのワーク・ライフ・バランス』パド・ウィメンズ・オフィス(270頁, A5判) |
| ⑧米田巖著『部長の資格』講談社(226頁, 新書判) | ⑬⑭二神能基他監修『働かない息子・娘に親がすべき35のこと』アース・スター・エンターテインメント(191頁, 四六判) |
| ⑨威惠善著『人材イノベーション』白桃書房(x+336頁, A5判) | ⑮阿部彩著『解決策を考える』岩波書店(ix+240+14頁, 新書判) |
| ⑩松永憲吾著『全員65歳継続雇用時代の新しい定年後の賃金・処遇制度』東京図書出版(156頁, A5判) | ⑯勢古浩爾著『定年後のリアル』草思社(248頁, A6判) |
| ⑪野中郁江他編著『ファンド規制と労働組合』新日本出版社(189頁, 四六判) | ⑰角田由紀子著『性と法律』岩波書店(iv+259+5頁, 新書判) |
| ⑫釘原直樹著『人はなぜ集団になると怠けるのか』中央公論新社(vi+252頁, 新書判) | ⑱関満博著『人と暮らしと仕事』の未来』新評論(366頁, A5判) |
| ⑬大沢真理著『生活保障のガバナンス』有斐閣(xv+441頁, A5判) | ⑳耳塚寛明編『教育格差の社会学』有斐閣(xii+248頁, 四六判) |
| ⑭徐婉寧著『ストレス性疾患と労災救済』信山社(xiv+434頁, A5判) | ㉑藤本隆宏著『現場主義の競争戦略』新潮社(221頁, 新書判) |
| ⑮日野瑛太郎著『あ、[やりがい]とかららないんで、とりあえず残業代ください。』東洋経済新報社(167頁, 四六判) | ㉒高杉晋吾著『原発の底で働いて』緑風出版(213頁, A5判) |
| ⑯高橋祐吉著『現代日本における労働世界の構図』旬報社(275頁, A5判) | ㉓谷川史郎著『革新者の時代』東洋経済新報社(206頁, A5判) |
| ⑰西谷敏他編著『労働法の基本概念』旬報社(x+258頁, A5判) | ㉔梅原淳著『J R崩壊』KADOKAWA(197頁, 新書判) |

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書115,000冊、洋書30,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

労働図書館 HP: <http://www.jil.go.jp/lib/index.htm>

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

